

# Q & A

問題解決!



北部営農センター 農産課 営農主幹  
気賀澤 洋巨

**Q1** スイカの接ぎ木苗は、私でもつくれることができますか。

**A1** スイカの接ぎ木苗は、どんなでもつくれることができますね。

スイカはつる割れ病やつる枯れ病などが生育途中に発生したり、連作障害で成長が止まってしまうことがあります。

当JAでは、昨年の就農塾からスイカの接ぎ木割り接ぎを、塾生全員に体験していただきました。その状況を含めて手法を紹介します。接ぎ木の成功率は80%以上ありました。

- ① 台木は、病気に強くて着果が安定し、接ぎ木作業が楽な軸の太いカンピョウ(ユウガオ)を使う。
- ② スイカより1週間早くカンピョウを播種する。
- ③ スイカを播種して1週間後に接ぎ木を行う。
- ④ 接ぎ木後は10日間、半日陰状態で管理(養生)する。その後は、接ぎ木苗に徐々に太陽光に当てる時間を増やす。
- ⑤ 接ぎ木してから3週間後に定植する。

以上が接ぎ木の作業です。



写真1 カンピョウの芽を切除

細かく説明しますと、台木のカンピョウの芽を除去(写真1)し、消毒した安全カミソリで中心をタテに1cm切ります。一方、スイカの苗は葉下1cmで切り、台木の葉とクロス写真2)するようにクサビ状に茎を削ぎます。それぞれの切断面が接合できるように接着し、ピンチ(写真3)で固定すれば接ぎ木作業は終了(写真4)です。

接ぎ木苗の養生法は、活着するまで日陰でトンネルをかけ、白の寒冷紗で遮光します。1週間後から徐々に日光に当てる時間を増やしますが、かん水は1週間行いません。その後は、切り口に水がかからないように、土のみにかん水します。

ナスやトマトでも、同様に「挿し接ぎ」や「呼び接ぎ」で接ぎ木を行うことができます。台木の種類の選定を行うこと、茎が細いことから、作業は難しいです。「挿し接ぎ法」「呼び接ぎ法」の紹介は省略しますが、是非、一度は取り組まれたらいいでしょう。



写真3 ピンチで接ぎ木部分を固定



写真2 台木と穂木の葉はクロス

**A2** エダマメなどの豆類は、連作してほしくありません。理由は、土壌中にダイズシストセンチュウなど、生育を阻害するものが増えるからです。一旦増えると、死滅するまでには多くの年数が必要になります。

**Q2** エダマメを前作と同じ場所で栽培することができますか。

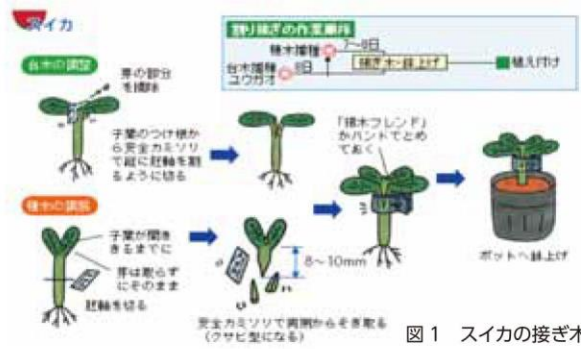


図1 スイカの接ぎ木



写真4 完成した接ぎ木苗

9年間、「家庭菜園Q&A」を担当しましたが、今回で私の担当は終了します。皆さんから励ましの言葉をいただき、ありがとうございました。



写真6 サヤが揃ったエダマメ



写真5 定植適期のエダマメ苗

基本は、2年間栽培しないことです。毎年栽培したいときには、秋から冬にネギ等を栽培することです。それは、センチュウなどが繁殖しにくい野菜を栽培することで、センチュウなどの密度が低下します。ネギ以外にはトウモロコシやダイコンが良いといわれます。

これ以外にも、家畜ふん堆肥を使うことで堆肥の分解菌がセンチュウを攻撃し、密度が低下するとの報告があります。地力づくりを行えば、連作することが可能ですので、10アールあたり2トンの堆肥施用を行いたいです。